



資料館だより

NO.62
2017年
11月号

過去と未来がひびきあう

—ようこそ、エコミューズへ。

www.aozora.or.jp/shiryout/

あおぞら
財団付属

西淀川・公害と環境資料館

エコミューズ

JEEF主催「公害とSDGs ～大阪・西淀川の経験から考える～」を開催
ゲストハウスを活用し2泊3日研修

10月7～9日、(公財)日本環境教育フォーラム(JEEF)主催で2泊3日の研修を実施しました。北海道・東京・四日市・京都から集まった6人の大学生・大学院生が、西淀川で公害の経験を学び、SDGs達成に向けて新たなイノベーションを起こすことをめざしたイベントです。

初日夕方、ゲストハウス「いこね」に集まり、JEEFの加藤さんからオリエンテーションとSDGsの解説がありました。自己紹介の次は、あおぞら財団のロールプレイ教材を体験。その体験を振り返り、気づいたことを「環境」「社会」「経済」の観点で分析、「公害」が引き起こす複雑な問題を実感した上で、各自、この勉強会での目標設定をしました。

2日目午前中はタンデム自転車を使って西淀川フィールドワークです！「自転車に乗るのは10年ぶり」という参加者も、あみだくじで決めたペアで43号線や淀川河川敷まで周りました。「くじらカフェ」に戻っての、患者会の山下晴美さんと池永末子さんとの昼食交流会では、さっきまで大阪のおばちゃんトークで楽しく話していたお二人の辛い体験談に、みなさんは聞き入っていました。

2日目後半はインプットです。あおぞらビルの研修室に移動し、林によるフォトランゲージの後、西淀川公害の基本を講義。除本理史さん(大阪市立大学)には「戦後日本の公害と地域再生」と題し、福島の実状も交えながらご講義いただきました。



SDGsカードと話し合いをまとめた
模造紙を持って記念撮影

「公害の被害は健康の被害だけではない。破壊された暮らし、地域、失った生業などを全体として回復することが重要」という指摘に、SDGsの「誰一人取り残さない世界の実現」という言葉の重みを改めて考えました。お好み焼きの夕食を挟んだ後、江口健介さん(環境パートナーシップ会議)の講義では、「今のユースは『自分たちの働きで社会の制度を変えられない』と思っている」という調査結果があるけれど、先人たちは公害と闘った。協働することで可能性は広がる」というメッセージが投げかけられました。

3日目最終日は、ユースとしてできることについて、学生たち自身で話し合いです。2日も夜は遅くまでゲストハウスで交流を深めた学生の学びの成果は、「公害資料館連携フォーラムin大阪」(裏面「お知らせ欄」参照)で発表されます。ご期待ください！
(栗本知子)



SDGsについてKP法(紙芝居プレゼンテーション)
で解説する加藤さん

ゲストハウスを使って研修できます



あおぞら財団では、今まで、まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流といった事業を行ってきました。患者さんの「手渡したいのは青い空」の思いを、もっと身近に、さらに多くの人に広げていくためにゲストハウス&カフェをオープンします。

ゲストハウス&カフェの名前は、「姫里ゲストハウスいこね」と「くじらカフェ」です。「いこね」は、『憩う』ことができる寝床ということと、『いこうね！』の意味をかけています。「くじらカフェ」は西淀川区の形がくじらの形に似ていることに由来し、あおぞら財団がくじらのキャラクターをマスコットに使用していることから名付けました。ゲストハウスいこね(年内オープン)は西淀川に研修に来る人の宿として、くじらカフェは交流の場として是非ご利用ください。



<http://aozora.or.jp/icone-kujiracafe/>